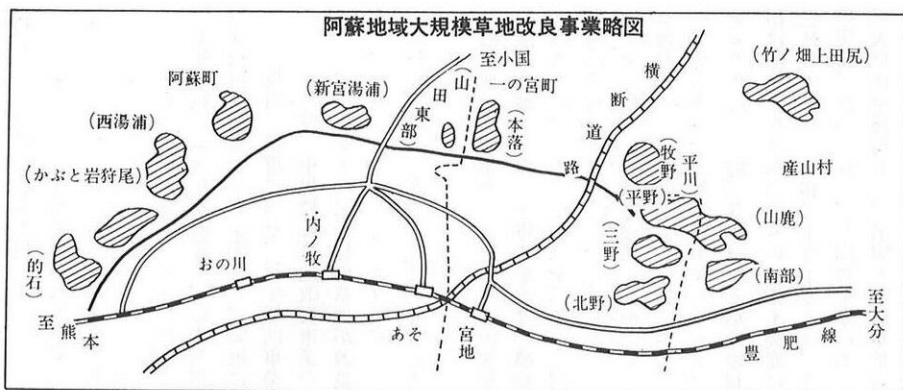


して、そのあとの経営は十三の農家協業体が、周年放牧の型で搾乳および肥育を行ない、畜産の振興をはかる計画である。計画は昭和三十六年より四十年まで調査期間として計画を樹立、事業の実施は昭和四十一年から四十五年度に至る五



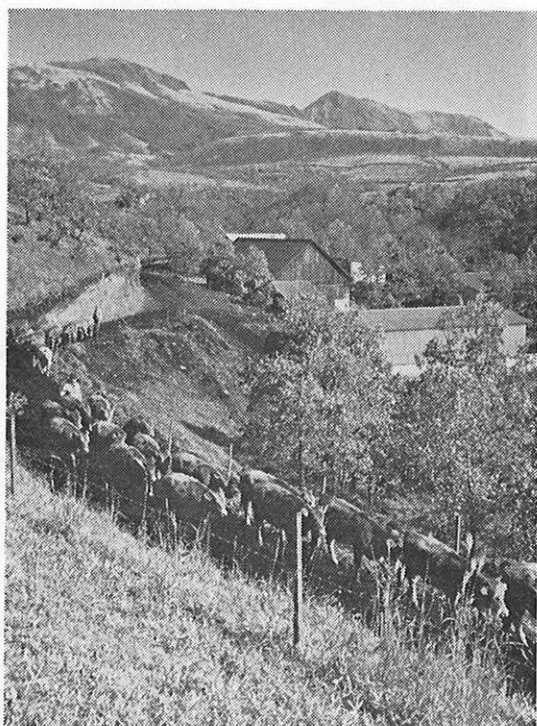
カ年をもって完了の予定となっている。事業の内容は国営となる基本施設(草地造成、道路整備、雑用水整備)と町村営になる付帯施設(障害物設置、牧野樹林等)及び関連事業(家畜導入、管理用機械、搾乳施設等)からなり事業費は左表のとおりとなっている。国営事業は県および町村の一部負担となり、利用施設は国及び県の補助事業として、またこれにともなう関連の施設、家畜の導入は農業構造改善事業やその他の事業で補完し事業の推進をはかることとなっている。

区分	種別	事業種目	事業量	事業費(千円)
大規模草地改良事業	基本施設	草地造成	1,700ha	974,000
		道路整備	48,547m	868,800
		雑用水	8	17,500
	付帯施設	障害物設置	283,700m	283,785
		家畜導入	43,800頭	400,000
		管理用機械	7,800m ²	300,000
		家畜管理ミ	1,900m ²	400,000
		家畜管理ミ	4,000m ²	98ha
	関連施設	家畜管理ミ	乳牛1,610頭	411,694
		家畜管理ミ	33セット	17セ

完成後のすがた

この事業の完成によって千七百頭の牧草地による十三の牧場が完成し、乳牛約二千九百頭、肉牛約二千七百頭が飼われることとなり、青々とした牧草で年間放

一草地改良とともに、牧畜施設も近代化されてきている……阿蘇郡産山村にて一



例は少なく小国町の三共牧場等の経験を含めて、その中から選択改善工夫が必要となつて草地畜産の経営技術の確立が今後の課題となっている。

今後、大規模の草地畜産を進めてゆくためには人づくりの問題が急務とされるので、県職員をデンマークに派遣し、一カ年半にわたり外国の草地畜産の研究を深め、また現在の牧場に直接たずさわる青年の研修も国の牧場やその他の牧場へ派遣している。

帰省後はそれぞれの自分の持場で中核的な推進力となり、阿蘇開発のいしずえとなることが期待されている。

(畜産課)

主要林道網の整備

近年、木材の需要は急激に増大しているがその反面、国産材の生産は停滞している。これは労働力の不足や、造林の減少などいくつかの林業経営上の問題点があげられるが、とりわけこれらの問題を打開する一つの鍵として林道網の整備拡充があげられている。

県下の森林資源

本県の林野面積は約四十八万畝で、県下総面積の約六五%を占め、うち民有林は約四十万畝、国有林は約八万畝である。

民有林の総面積は二千三百三十万平方尺(針葉樹千二百六十万平方尺、広葉樹千七十万平方尺)である。これらの森林から生産される木材は、年間針葉樹約百万立方尺、広葉樹三十万立方尺で、この搬出は殆んど林道に依存しているのである。

林道の性格

戦前、戦後の林道は過渡期の木材需要の逼迫を緩和するために、供給量の増大をはかることに重点がおかれていたために補助の対象は、森林資源の多寡によってのみ決められた。

従って里山地帯の開発或は林種転換が遅れる等の結果を生じた。

特に近年林業をめぐる諸情勢の変化のため木材輸送路としての林道のほか、生産性の向上経営の近代化、山村地域の産業振興、住民の福祉増進の目的をも加味された。



〈立派に完成した林道五家荘下屋敷線〉